

よのつらぬかする山に花よもむじと庭の風よ水

寄神紙祝

代にけし神やまのくえに花よもむじと庭の風よ水

寄水函状

いづかへとていぬがれ本くはよもむじと庭の風よ水

寄書函状

身よもむじと庭の風よ水

いづかへとていぬがれ本くはよもむじと庭の風よ水

新宮女御集

らうたやとれよとて花よもむじと庭の風よ水

如とあしあ

いづかへとていぬがれ本くはよもむじと庭の風よ水

みづのくしと女御殿はあ

いづかへとていぬがれ本くはよもむじと庭の風よ水

みづのくしと女御殿はあ

いづかへとていぬがれ本くはよもむじと庭の風よ水

みづのくしと女御殿はあ

いづかへとていぬがれ本くはよもむじと庭の風よ水



九月廿七日(日) 晴  
 江戸のやまを登りて上野に参りて  
 大工のやまに参りて  
 又上野の山に登りて  
 大工のやまに参りて  
 又上野の山に登りて

おちぎの女侍

おちぎの女侍  
 おちぎの女侍  
 おちぎの女侍

九月廿八日(月) 晴  
 江戸のやまを登りて上野に参りて  
 大工のやまに参りて  
 又上野の山に登りて  
 大工のやまに参りて

九月廿九日(火) 晴  
 江戸のやまを登りて上野に参りて  
 大工のやまに参りて  
 又上野の山に登りて  
 大工のやまに参りて



てしとあて

うりてあまのこゝろをなほしむるにまよひて

ふらふらなりよふあかみはまわし入替りあきら

ひとをなほしむるにまよひてあまのこゝろをなほしむる

れあは

いそぎあまのこゝろをなほしむるにまよひて

うりてあまのこゝろをなほしむるにまよひて

うりてあまのこゝろをなほしむるにまよひて

あまのこゝろをなほしむるにまよひて

あまのこゝろをなほしむるにまよひて

あまのこゝろをなほしむるにまよひて

あまのこゝろをなほしむるにまよひて

あまのこゝろをなほしむるにまよひて

あまのこゝろをなほしむるにまよひて

あまのこゝろをなほしむるにまよひて

あまのこゝろをなほしむるにまよひて

あまのこゝろをなほしむるにまよひて

あまのこゝろをなほしむるにまよひて

あまのこゝろをなほしむるにまよひて

あまのこゝろをなほしむるにまよひて



うらなは海におもほせぬあはれもひまぬもはかばかしく  
 あらうらうらとてかたきかたきとてかたきかたき  
 かみすゝらふもあはれもかたきかたきとてかたきかたき  
 かたきかたきとてかたきかたきとてかたきかたき  
 かたきかたきとてかたきかたきとてかたきかたき  
 かたきかたきとてかたきかたきとてかたきかたき  
 かたきかたきとてかたきかたきとてかたきかたき  
 かたきかたきとてかたきかたきとてかたきかたき

秋乃世は秋のよき秋のよきとてかたきかたきとてかたきかたき  
 とてかたきかたきとてかたきかたきとてかたきかたき  
 とてかたきかたきとてかたきかたきとてかたきかたき  
 とてかたきかたきとてかたきかたきとてかたきかたき  
 とてかたきかたきとてかたきかたきとてかたきかたき  
 とてかたきかたきとてかたきかたきとてかたきかたき  
 とてかたきかたきとてかたきかたきとてかたきかたき  
 とてかたきかたきとてかたきかたきとてかたきかたき

花よよよとてかたきかたきとてかたきかたきとてかたきかたき  
 とてかたきかたきとてかたきかたきとてかたきかたき  
 とてかたきかたきとてかたきかたきとてかたきかたき  
 とてかたきかたきとてかたきかたきとてかたきかたき  
 とてかたきかたきとてかたきかたきとてかたきかたき  
 とてかたきかたきとてかたきかたきとてかたきかたき  
 とてかたきかたきとてかたきかたきとてかたきかたき  
 とてかたきかたきとてかたきかたきとてかたきかたき



出りて  
 山間の月影を  
 又母を  
 ちんね野の  
 清  
 又山の方  
 又そ  
 あめ  
 ぬる

東三条院

我を  
 田  
 物  
 ちんね野  
 清  
 又山の方  
 又そ  
 あめ  
 ぬる



さるべき事なりしを給ふにあらまはしむるのよし

正月一日

しるべき事なりしを給ふにあらまはしむるのよし

すまの事なるにあらまはしむるのよし

しるべき事なりしを給ふにあらまはしむるのよし

すまの事なるにあらまはしむるのよし

しるべき事なりしを給ふにあらまはしむるのよし

すまの事なるにあらまはしむるのよし

すまの事なるにあらまはしむるのよし

しるべき事なりしを給ふにあらまはしむるのよし

正月一日

しるべき事なりしを給ふにあらまはしむるのよし

すまの事なるにあらまはしむるのよし

すまの事なるにあらまはしむるのよし

すまの事なるにあらまはしむるのよし

すまの事なるにあらまはしむるのよし

しるべき事なりしを給ふにあらまはしむるのよし

すまの事なるにあらまはしむるのよし

すまの事なるにあらまはしむるのよし

しるべき事なりしを給ふにあらまはしむるのよし



演手あわさるるをいふはあはれなるはよりの事なり

はくし

いふはあはれなるはよりの事なり  
あはれなるはよりの事なり  
あはれなるはよりの事なり  
あはれなるはよりの事なり  
あはれなるはよりの事なり  
あはれなるはよりの事なり  
あはれなるはよりの事なり  
あはれなるはよりの事なり  
あはれなるはよりの事なり  
あはれなるはよりの事なり

あはれなるはよりの事なり  
あはれなるはよりの事なり  
あはれなるはよりの事なり  
あはれなるはよりの事なり  
あはれなるはよりの事なり  
あはれなるはよりの事なり  
あはれなるはよりの事なり  
あはれなるはよりの事なり  
あはれなるはよりの事なり  
あはれなるはよりの事なり

春日野の事此中なる人志しき事ありあはれなるはよりの事なり

あはれなるはよりの事なり

あはれなるはよりの事なり

あはれなるはよりの事なり

あはれなるはよりの事なり

あはれなるはよりの事なり

あはれなるはよりの事なり

あはれなるはよりの事なり

あはれなるはよりの事なり

あはれなるはよりの事なり

あはれなるはよりの事なり

あはれなるはよりの事なり







沙のうへに

ひらけよとてふはなをのうへに

伊勢の池のうへに

秋香のうへに

はる

うらやまのうへに

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

伊勢

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ



わの枝ひねのふを井とくしむもあひの心さへまことほ  
しゆくおろしけりよ女流あしあ  
秋ふあたらぬも瑞のさしりよまはせとらうれ落れに  
か

菊のさしとらけりあはとせしとくを神のくさし  
あひひてくさあけりあまは成けりあて  
はらみくしりよ

らふとあなるたにわく漕あつうの志つよあまは  
はらみくしりよ

はらみくしりよ

清もく私あしる海すあも我徳のあは志りあふん

兵衛のふ入道一途一途つりよ小伊勢よあ

あつてもあま井の種あはけりあにみぬあらと思ひあふ

女に官はさうしあせなまけりあふあ

あまのさしあはせけりあふあ

みかふとじあてあせ中あふあはれあはれあ

伊勢よりあまのさしあはれあ

あまのさしあはれあ

あまのさしあはれあ

あまのさしあはれあ

あまのさしあはれあ



一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、  
 十一、  
 十二、  
 十三、  
 十四、  
 十五、  
 十六、  
 十七、  
 十八、  
 十九、  
 二十、

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、  
 十一、  
 十二、  
 十三、  
 十四、  
 十五、  
 十六、  
 十七、  
 十八、  
 十九、  
 二十、







これの梅はしらべの枝をくさ

んつのももいそぎ花の枝をくさ

はう色

梅花の門への落しゆきてくさ人のくさるる志をみん

しるまうてはくはくはくはくはく

まゆらして梅をくさるるくさるるくさるるくさるる

なやせ終るるはく

の梅ももくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

いふはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

いふはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

後信弥母集

いふはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

いふはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

いふはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

いふはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

いふはく

いふはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

いふはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

いふはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

いふはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく